

## 1. 実況上の着目点

- ① 低気圧が千島近海を発達しながら東進。アムール川中流には高気圧があって北日本中心に西高東低の気圧配置となっている。北日本と南西諸島ではやや強い風や強い雨が吹いて全国的に波が高くなり、北日本では大しけとなっている所がある。また、850hPa -12℃以下の寒気が流入し、北海道地方では3時間で10cm弱の雪が降っている所がある。
- ② 大型で強い台風第26号がフィリピンの東を西進。

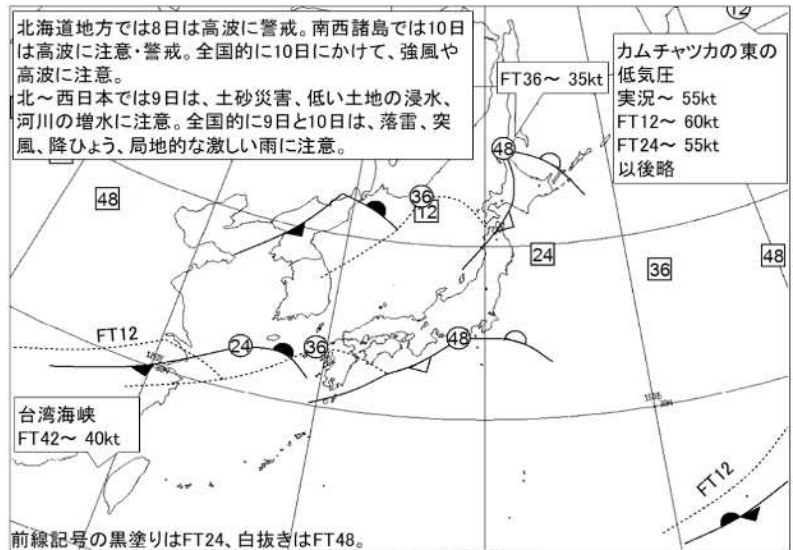
## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は8日は、千島の東を北東進する低気圧と一体化し、カムチャツカの東へ進む。また、1項①の高気圧は8日朝には日本海に移動し、北日本の寒気移流の降水は8日日中にかけて解消する。
- ② 500hPa 5820m付近の正渦度移流に対応して、8日朝までに華中付近で前線が発生し、9日は前線を伴った低気圧となって西～東日本を東進する。また、500hPa 5460m付近の寒気を伴うトラフに対応して、8日夜には黄海から中国東北区付近に前線が発生し、前線を伴った低気圧となって10日にかけてオホーツク海へ進み、9日は東～北日本を寒冷前線が通過する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で大気の状態が不安定となり、強い雨や激しい雨が降り大雨となる所がある。北～西日本では9日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ③ 1項②の台風第26号は、9日にかけてフィリピンの東を発達しながら西北西進し、10日夜には南シナ海に進む。台風東側の暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では9日と10日は、落雷や突風、局地的な激しい雨に注意。
- ④ 2項①の高気圧は8日夜には日本の東へ移動し、西高東低の気圧配置は緩むが、10日は2項②の2つの低気圧が日本のはるか東とオホーツク海へ進み、日本付近は再び西高東低の気圧配置となり、10日の日中は東～北日本に500hPa -24℃以下の寒気が流入し、大気の状態が不安定となる所がある。北～西日本では落雷や突風、急な強い雨に注意し、北～東日本は山地を中心に降雪となる所がある事に留意。
- ⑤ 1項①や2項④の西高東低の気圧配置や、2項②の低気圧や前線、2項③の台風の影響で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い雨が吹き、波が高くなりしける所がある。全国的に10日にかけて、強風や高波に注意。特に北海道地方では2項①の低気圧からのうねりの影響で、南西諸島では2項③の台風からのうねりの影響で、しけや大しけとなる所がある。北海道地方では8日は高波に警戒。南西諸島では10日は注意・警戒。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- ## 4. 防災関連事項【量的予報等】
- ① 雨量(06時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。
  - ② 波浪(明日まで)：北海道6、沖縄4、その他広い範囲で3m。
  - ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西～北日本では注意報基準を超過する所がある。

## 5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図